

タイトル	退職にあたって
著者	中川, かず子; NAKAGAWA, Kazuko
引用	北海学園大学人文論集(68): 25-32
発行日	2020-03-31



中川かず子教授

退職にあたって

— 人文学部開設当時、そしてこれから —

中 川 かず子

人文学部が設置されたのは1993年（平成5年）4月であります。学部開設に尽力された故山根助助名誉教授と初代学部長だった故菱川善夫名誉教授の学部に対する思いが『北海道から』（北海学園発行、1993年1月号、別冊）に垣間見えます。同誌の冒頭で菱川教授が、それまでの文学、歴史だけの「日本文化」研究から、思想、宗教、生活文化、言語の研究を含む「日本文化」を総合的に研究するための学科を開設すること、さらに国際化の趨勢の中で日本文化を世界に発信したいというメッセージを残されています（同；pp.2-6）。その中で、外国人に対する日本語教育、外国人留学生の受入れに関わる科目構成と人文学部でこの分野を主導していく意気込みが伝わってきます。学部新設に当たり、当時の「留学生10万人計画」（1986年～）を推進する文部省の助言があったことも聞いています。

私自身、人文学部開設を3年に渡って準備されてきた故山根教授から直接声をかけていただき、留学生への日本語教育と日本語教員養成に関わることになりました。学部としても、留学生教育と日本語教師養成を新学部の主要分野の一つとして位置づけようと考えたようです。同期の菅泰雄教授（日本語学担当）も人文学部開設時のメンバーであり、学生時代の日本語教師体験が同誌に掲載されています（p.14）が、日本語教育が菅教授の学生生活や研究に影響を与えたことが綴られています。直接お話を聞いたことは1、2度ありましたが、日本語教育への関心がそこまで高かったとは意外でした。

現在ではグローバル化という言葉が聞かれますが、当時は、「国際化」が一般的で、英米文化学科科目として（のちに両学科履修可能）「国際文化論」

「現代国際関係論」「現代マスコミ・ジャーナリズム論」のほか、イギリス、アメリカ、カナダからの外国人専任講師、同客員講師（非常勤講師を除く）を14名も揃え、「比較文化論」や多様な英語教育科目が開講されていました。

人文学部は、当時の道内経済界からも国際的人材育成を期待され、熱い視線が向けられていました。外国人講師陣も人文学部学生の英語力を高めるための工夫をこらし、教授能力とともに日本語会話能力の向上を目指し、学内に設けた能力別日本語クラス（初級、中級の2クラス、週に2回）に全員が参加してくれました。このクラスは筆者が外国人講師の方々に参加を呼びかけ、ボランティアで教えることになったものです。期間は1年間続けましたが、外国人講師の方々は教授法も学べるとして一度も休まずに受講していました。そうした講師陣の熱意ある指導法、チームワークにより最初の数年間は学部の雰囲気も良かったように思えます。

私が関わった本学の主要な仕事として日本語教員養成課程の開設がありますが、学部の新カリキュラムが平成10年（1998年）から実施され、そこから学部開設時に不足していた日本語教員養成課程に必要な科目を補充し、文部省ガイドラインによる「副専攻」（26単位）を満たす34単位必修科目を開講するに至りました。さらに、平成12年（2000年）の文化庁による「新たな教育内容」（新ガイドライン）が示され、新ガイドラインに沿った本学の日本語教員養成課程（32単位必修）が正式にスタートすることになりました。

こうして、2001年度から2019年度までの修了生は累計で893名となりました。卒業生は現在、国内・海外の大学、高校で日本語を教えるほか、国際交流基金の専門家、JICAの日本語教師として海外で活躍する人達もおり、本学日本語教員養成課程の存在が浸透してきたことを嬉しく思います。

人文学部には言語、文学、歴史・文化分野の専門家が集まり、しかも、1～2年の初年次教育にも熱心に取り組み、学生達に丁寧な指導が行き渡っていると思います。教員の負担を考慮しつつも、今後も学生に寄り添いながら教育・研究の充実を願っています。

学部教職員の皆様には大変お世話になりました。ご厚情に感謝を申し上げます。

履 歴

中川かず子 昭和 26 年 10 月 6 日生

1) 学 歴

- 昭和 50 年 3 月 北海道教育大学札幌校教育学部教育学科（教育思想史専攻）卒業
- 昭和 63 年 9 月 ロンドン大学大学院教育学研究科修士課程 応用言語学専攻 入学
- 平成 1 年 7 月 ロンドン大学大学院教育学研究科修士課程 応用言語学専攻 修了

2) 職 歴

- 昭和 54 年 12 月～昭和 57 年 12 月
シンガポール高等技術専門学校（Technical Training Centre）専任日本語講師
- 昭和 57 年 12 月～平成 2 年 3 月
東京国際総合学園付属インターカルト日本語学校 専任日本語講師
- 昭和 63 年 6 月～平成 1 年 6 月
- ・ロンドン大学 S.O.A.S. 兼任日本語講師（学部生，外交官，社会人対象）
 - ・Ealing College of Higher Education 商学部 兼任日本語講師及びコーディネータ
- 平成 2 年 4 月～平成 5 年 3 月
北海道教育大学札幌校 兼任日本語講師（日本語教育）
- 平成 3 年 4 月～平成 4 年 3 月
北海道大学留学生センター 兼任日本語講師

平成4年4月～平成5年3月

北海学園大学教養部教授（日本文学Ⅰ，教養演習担当）

平成5年4月～現在に至る

北海学園大学人文学部教授【日本語教授法，対照言語学，日本語表現法，演習Ⅰ，Ⅱほか留学生科目兼任（～平成12年）】

平成13年4月～現在に至る

北海学園大学文学研究科教授【日本語研究特殊講義，同演習（修士課程）／日本語・思想文化特殊講義，論文指導（博士課程）】

平成8年4月～平成10年3月 北海学園大学付属図書館長

*平成4年3月 文部省大学設置審議委員会の教員組織審査

北海学園大学教授：日本語教授法，対照言語学，日本語表現法，演習Ⅰ，Ⅱ

3) 研究業績 — 著書・論文，研究発表など

著書：

『対象言語別日本語教授法 — 英語編 —』（単著）バベルプレス 1990年

『Japanese for business communication』（単著）英国 ELM Publications, 1991年

『NHK スタンダード日本語講座Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ』（主著者）日本放送出版協会 1991～1993年

『NHK プラクティカル日本語講座Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ』（主著者）日本放送出版協会 1992～1994年

『広がる日本語教育ネットワーク』（共著）日本語教育学会編 凡人社 1995年

『日本語教育，異文化間コミュニケーション』（共著）凡人社 1995年

『EBS日本語会話』（監修）韓国 EBS 放送協会 2001年3月～8月

報告書：

- 『母語別に対応できる音声教材開発に向けて』（文部省科学研究助成研究報告書，研究代表者 中川，1996年3月）
- 『大学日本語教員養成において必要とされる新たな教育内容に関する研究』（共著）大学教員養成課程調査委員会編（文化庁委嘱）2001年
- 『日韓の文化交流を深める日本語テレビ・ビデオ教材の研究と開発』（共著）（研究代表者 中川，総合開発研究機構 NIRA，2002年）

論文：

- 「日本語学習書に見る欧米人の言語観——19世紀後半～20世紀前半期の文典，語学書を中心に」『新人文』第1号，北海学園大学文学研究科，2005年（単著）
- 「ジェームス・サマーズ——日本研究者，教育者としての再評価」『人文論集』第41号，北海学園大学，2008年（単著）
- 「日本語教授法に生きる自然主義教授法——19世紀の教授法改革者 L. ソブールの残したもの」『人文論集』第47号，北海学園大学，2010年（単著）
- 「日本人学生と留学生の異文化交流——異文化接触，協働的活動を通じた大学教育への適応と意識変容」『留学交流』4月号，日本学生支援機構，2012年（単著）
- 「日本語教員養成の現在と今後の可能性」『人文論集』第53号，2013年（単著）
- 「日本語のローマ字表記をめぐる西洋人の研究史——西洋人による日本語文典，辞書，研究誌からの考察」『人文学の新しい可能性』北海学園学術研究助成総合研究，2015年（単著）
- 「道内外国人技能実習生の日本語環境をめぐる課題」『開発論集』第99号，北海学園大学開発研究所，2017年（共著，主著者）
- 「北海道におけるベトナム人技能実習生の日本語学習意識と学習環境」『開発論集』第102号，北海学園大学開発研究所，2018年（共著，主著者）

上記の論文のほか、1987～2007年までに20編+の論文を執筆している。

学会発表：

- Historical Perspectives in relation to European and American Traditions in the Studies of Language and Language Teaching. (ヨーロッパ日本研究学会 EAJIS 国際大会, ウィーン大学, 2005年8月(単独))
- 韓国における日本語学習者の日本語・日本文化に対する意識【日本語教育国際研究大会, コロンビア大学; NY, 2006年(共同研究, 代表者)】
- 中国人学習者と日本人教師の日本語学習に対する意識——学習者の価値観, 面子の学習姿勢への影響(日本語教育国際大会, シドニー NSW 大学, 2009年)(共同)
- 大学と地域をつなぐ日本語教員養成(パネリスト, 大学日本語教員養成課程研究協議会, 北海学園大学, 2012年)(単独)

上記に加え、2018年までに国内外での学会、研究大会で15件の研究発表を行った。

4) 教 育 歴 —— 学部, 大学院の担当科目

学 部：

(現在) 日本語教授法 I, II, 日本語専門演習 I, II, 基礎演習, 人文学演習, 日本語教育特別演習(集中), 卒業研究

大学院：

(現在) 日本語研究特殊講義 I, 日本語研究特殊講義演習 I-A, I-B(修士課程)

日本語・思想文化論文指導 II-A, II-B, II-C(博士課程)

5) 学内委員等

海外帰国生徒・留学生委員会委員長	平成 4 年～6 年
付属図書館長, 図書館学課程委員会委員長	平成 8 年～10 年
国際交流委員会委員長	平成 12 年～16 年
韓国協定校専門委員会委員長	平成 15 年～17 年
留学生専門委員会委員長	平成 18 年～26 年
日本語教員養成課程委員長	平成 12 年～現在

上記のほか, 教職課程委員会, キャリア支援 (旧就職) 委員会, 図書委員会, 留学生専門委員 (～現在), セクハラ防止対策・基本権委員会における学部委員を務めてきた。

6) 所属学会等の活動, 経歴

(現在の所属学会)

(公益社団法人) 日本語教育学会 — 1987 年～現在

平成 13 年 4 月～現在

日本語教育学会学会誌委員会 査読委員 (平成 23 年～平成 27 年
主査担当)

平成 13 年～平成 25 年

日本語教育学会 評議員

平成 26 年～平成 30 年

日本語教育学会 代議員

大学日本語教員養成課程研究協議会 — 平成 8 年 (1998 年) ～現在

平成 18 年～平成 22 年

大学日本語教員養成課程研究協議会 理事

上記のほか, ヨーロッパ日本研究学会 (EAJS) に所属 (～現在), 日本語学会 (旧国語学会), 日本音声学会は平成 5 年～平成 18 年まで所属した。

学会以外の社会的活動として、NHK 教育テレビ日本語講座制作委員、文化庁委嘱大学教員養成課程教育内容検討委員、韓国教育放送院（EBS）日本語講座検討委員、北海道国際化推進員、北海道日本語教育ネットワーク代表等を務めている。